

令和7年度 第1回地域連携推進会議

事業所名	サポートセンターゆうあい
サービス種類	共同生活援助
開催日時	2025年5月24日(土) 10:00~12:00
開催場所	はまだホーム 101号室(共同部屋)
出席者 (計9名)	<p>広野町民生委員協議会 民生委員 1名</p> <p>広野町社会福祉協議会 事務局長 1名</p> <p>広野町健康福祉課 係長 1名</p> <p>利用者家族 1名 利用者 1名</p> <p>当事業所: 所長 1名、課長 1名、サービス管理責任者 1名 係長 1名</p>
議題内容・挨拶	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. 委嘱状交付 3. 出席者紹介 4. 当法人及び当事業所の概要・運営方針について 5. 当事業所の運営及び利用者状況について 6. 利用者の権利擁護について 7. 地域での活動について 8. 防災訓練について 9. ご質問・ご要望・ご助言 10. はまだホーム見学 11. 閉会あいさつ
目的	<p>地域連携推進会議を開催し、地域と事業所が連携することにより、利用者と地域の関係づくり、地域の人への事業所や利用者に関する理解の促進、事業所やサービスの透明性と質の確保、利用者の権利擁護を進めていくことを目的とする。</p>
当法人及び当事業所の概要・運営方針について	<p>・社会福祉法人友愛会の沿革・概要</p> <p>平成2年6月双葉郡富岡町に社会福祉法人友愛会設立、翌年入所施設「光洋愛成園」を開設、平成17年4月通所事業所「ワークセンターさくら」開設、平成20年4月通所事業所「リジョイスとみおか」を合併する形で開設(震災後廃止)。</p> <p>平成23年3月東日本大震災により、群馬県高崎市のぞみの園へ避難。</p>

	<p>平成 28 年 4 月双葉郡広野町へ帰還、「光洋愛成園」「ワークセンターさくら」「サポートセンターゆうあい」の建物を新設、事業再開。</p> <p>令和 7 年 4 月富岡町に通所事業所「アグリパークとみおか」開設。</p> <p>現在、GH 事業所 1（サポートセンターゆうあい）、相談事業所 1（サポートセンターゆうあい）延べ利用者 134 名 職員数 70 名</p> <p>・サポートセンターゆうあいの沿革・概要</p> <p>グループホームについては、入所施設の利用者さんが施設を出て地域で暮らしていく流れで、平成 15 年から平成 21 年にかけて 6 棟のホームが設立されました。</p> <p>平成 23 年 3 月東日本大震災にて避難、避難中は入所施設での生活となりました。</p> <p>平成 28 年 4 月広野町へ帰還、新設した 5 棟のホームで事業を再開、当初は利用者さん 27 名、支援者 6 名、世話人 3 名だった事業所が、令和 2 年には 1 棟増設し 6 ホームとなり、9 年目の現在は利用者さん 32 名、支援者 10 名、世話人 13 名となりました。</p> <p>・運営方針</p> <p>法人としては、安心（安心できる快適な環境を提供します）・笑顔（利用者様を笑顔で支えます）・礼儀（礼儀正しく尊厳を大切にします）・専門性（向上心を持って専門性を高めます）という 4 つの基本理念を守って事業を行っています。</p> <p>事業所の今年度の重点目標は①利用者さんの権利擁護への取り組みを強化します②利用者さん一人ひとりのニーズに対応したサービスを提供します③地域での生活を支援しますという 3 つであり、目標を持って支援に努めています。</p>
<p>当事業所の運営及び利用者状況</p>	<p>グループホーム運営状況は、広野町内に 6 か所開設。戸建て 4 ホーム・アパート型 2 ホーム。男性ホームは、火の口及び浜田地区 4 か所、女性ホームは、大谷内地区（事業所が併設）2 か所あり、現在 32 名（定員 35 名）が利用されています。3 名空き部屋があり、グループホーム利用の希望者がいれば体験入居の受入も実施しています。</p> <p>朝・夕、各ホームに世話人が勤務し、食事の提供・掃除や洗濯などの身の回りのこと、服薬管理や健康管理を支援してもらい暮らしています。</p>

	<p>→自分で料理することが出来る方に関しては、個別に対応しています。土日などの昼食はお弁当を注文する場合がありますが、自分で買物可能な方に関しては話し合い予定を組んで対応もしております。</p> <p>平日は、通所事業所や介護施設のデイサービスへ通所しています。休日は、余暇活動を行い、希望に沿って買物・外食・行事参加・地域イベントなどに外出しています。</p> <p>利用者さんの年齢は、20代から70代と幅広く、知的に障がいのある方がほとんどですが、身体や精神に障がいがある方も入居しています。</p> <p>通院には看護師を中心に支援員が同行し、定期的に健康状況を医師に報告しています。</p> <p>利用者の皆さんが安心・安全に暮らせるように、事故防止については、細心の注意を払って対応しています。転倒事故やケガを未然に防ぐように会議内で検討しており、事故が見られた場合は、事故報告やヒヤリハット報告書を作成し、同じミスを繰り返さないように努めています。</p>
<p>利用者の権利擁護に関わる報告</p>	<p>意思決定支援について、当事業所では、本人の意思を尊重しながら、利用者さんの権利や尊厳を守り、グループホームで自立した生活を送れるよう取り組んでおり、サービスの選択など自ら意思決定ができるよう配慮に努めています。</p> <p>利用者さんの人権擁護について、法人全体で虐待防止の研修や虐待防止委員会を開催しており、各事業所の取り組みを情報共有し対応しています。</p> <p>身体拘束について、当事業所では現在、該当する利用者さんはいませんが、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、職員一人ひとりが身体拘束について意識を持ち、身体拘束を行わない支援に努めています。</p> <p>Q：入所施設での身体拘束に関してはイメージがつくのですが、グループホームという身体拘束の枠組みが分からない。</p> <p>A：法人内では身体拘束等の適正化のための指針が例規集に明記されており、それに準じ対応することとなっています。身体拘束をしない為の支援（背景を知ること）を考え支援にあたっているところです。身体拘束をすることで必要書類の記入等で業務が増えますが、それは事業所や職員を擁護することにも繋がると考えています。</p>
<p>地域での活動状況</p>	<p>地域社会の一員であることを意識し、地域住民の方との交流の機</p>

	<p>会の確保、地域の社会資源の活用、ボランティアの受け入れ等、地域社会との連携を強化しながら、地域福祉の積極的な推進に努めています。3B 体操の開催、広野町の生涯学習発表会参加、花いっぱい運動への参加、その他に桜まつり、広野町のサマーフェスティバル、夏の相撲巡業、いわき市で開催されたファイヤーボンズのバスケットボール観戦などにも参加。今後も情報を収集し利用者さんの要望や声を聴きながら地域の方との関りがもてるよう支援していきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな外出等は個別に要望あれば対応しているが、職員配置も難しく全ての要望に対しての対応は難しいのが現状。スケジュールを確認しながら支援にあたっていました。 <p>コロナ感染症の時期は、どこにも外出ができない状態で利用者さんの表情も暗い様子が見られていたこともありました。職員会議の中ではコロナの時期だから外出は控えたほうが良いという意見もあれば、利用者さんを楽しませなければならないといった意見もありました。安全を取るのか、心の余暇を取るのか難しい判断は多くありました。</p> <p>利用者さんの中には高齢となり、生活の中でより支援が必要な方が増えてきています。介護保険を申請し、ケアマネと相談・連携しながら、地域の介護サービスを利用、デイサービスやショートステイを利用されている方もいます。一人ひとりに必要な支援を検討し、落ち着いた生活が送れるよう努めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染により外出制限が布かれ、筋力の低下が顕著に表れてしまいました。 <p>本人活動の会「びいす」という会があり、障がいのある当事者が会員となり、皆さんが主体となって学習会やイベントなどを企画しています。その中で皆さんからの要望をうけて、ふたば未来学園の高校生ボランティアを招いて BBQ を行いました。今後も地域の方のボランティアを招いてのイベントなどを企画できたらと考えています。</p> <p>広野町の津波避難訓練にも参加させていただき、参加された利用者さんからは避難の大切さ、大変さがわかったとの声が聞かれました。</p>
防災訓練	<p>防災訓練等年間計画に基づき、各種訓練を実施し、迅速に対応できるよう努めると共に、利用者さんの防災意識の向上に繋げられるよう努めています。非常時の連絡体制の強化のための連絡網により職員・世話人の連携を図っています。日常の災害予防としてガスで</p>

	<p>はなく IH の使用、出火に備えての消火器の設置、スプリンクラーの設置、防火カーテンの徹底と警報装置も設置しており、警報がなると警備会社につながり、駆け付けてくれるなど安心・安全に生活できるよう努めています。</p> <p>6 ホーム中 3 ホームに AED を設置しています。年に一度消防署の救命救急士を招いて救急講習を開き、世話人と一緒に AED の使い方を学んでいます。今年度は利用者さん 1 名も参加され、とても意欲的に話を聞いていました。</p> <p>災害発生時の備蓄品として食料・水を備えております。</p> <p>毎月 1 回、避難訓練を実施しています。行方不明者捜索訓練では、実際に利用者さんがいなくなったことを想定し、町内に出て聞き込みや捜索、状況を報告するなどを行いながら訓練を行っています。原子力災害訓練では、災害発生したことを想定しルートの確認などを行いよりスムーズな避難ができるよう努めています。いずれも、利用者さん一人ひとりの防災意識の位置づけになっています。</p> <p>大規模災害・感染症が発生した際に事業がストップしないよう BCP 作成が義務化され、当法人でも BCP (ビジネスコンティニュエーション) 事業継続計画が策定されました。近々では、光洋愛成園でインフルエンザ・コロナの感染症が利用者・職員へと広がり、この計画が実際に発動されました。計画に基づいて、ワークセンターさくら・サポートで職員が派遣され、利用者さんの支援に努めました。今後も当事業所でも法人全体で連携し、利用者さんが安心・安全に生活を送れるよう努めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人～町を歩いている時に誰かが倒れていたら助けないといけない。だから救急講習を受けました。 <p>Q：民生委員～毎月防災訓練を行っていて驚いています。行方不明者捜索ではどのように動いていますか？</p> <p>A：～グループホームの利用者さんの情報は一人ひとりパソコンのデータの中に写真や特徴を保存しており、誰でもすぐに印刷し検索できるよう備えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広野町～町の方でも毎年複数回、避難訓練等行っていますので是非参加してください。
<p>ご質問・ご要望・ご助言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広野町～今年度 4 月から医療費減免が切れ医療費がかかりますようになります。重心制度もありますので、利用可能な方がいれば申請してください。 ・広野町～65 歳以上で障害年金受給されている方、後期高齢の医療保険に結ぶことができます。結ぶことによって医療費

	<p>が1割になりますので、対象の方いましたらお知らせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協～今後の協議になってきますが、広野町社会福祉協議会では高齢者中心に支援をしていた経緯があります。ただ、本来地域住民、障がい者、児童、一人親、困窮等全ての人を対象としています。去年からは子育て支援事業の委託も受けていますが、まだまだ高齢者中心になっています。今回の会議を機に障がい関係の皆さまと連携を取りながら進めていきたい。まず1点はボランティアセンターの活用。もう1点は緊急時の対応災害ボランティアについて、明確な役割はまだ出ていないが逆に意見をもらいながら勉強させて進めていきたい。 <p>権利擁護に関して、認知症の方を対象する事例も多くあり、GPS やバーコードで身元保証することも本人たちが望まなければ取り付けることもできない。社協としては、背景理解を考えることが私たちの仕事だと根底にあると理解する必要があると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者～男子ホームは川、海が近い立地に建っている。地震があった際は事務所へ連絡をしてしまうが、心配もあるが何か手伝えること連携できることがあればと思って連絡もしている。今後は災害時の保護者との連携も検討してほしい。利用者さんの安心、周りの人の安心まで図れるといいのではないか。
<p>はまだホーム見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビング内、空き部屋見学実施。
<p>閉会挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な話が飛び交い実りある会議でありました。グループホームの方々は高齢者、若い方が暮らしそれぞれ希望も違います。私たち職員だけでその希望に対応することも限界はあります。積極的に地域の方に地域のサービスを利用することを考えています。地域支援について皆で考えていけたらと思います。 ・虐待のニュースも新聞で賑わせて心配事もあるかと思いますが、注意をしていますが、このような機会外部の目を入れて頂き尚一層そのようなことが無いよう努めていきます。 ・次回の地域連携推進会議では残り5棟の見学を予定しています。日程は10月26日(土)と考えています。近くなりましたらご都合伺い致します。宜しく願い致します。